

# GOOD CARE NURSE



## 第3号

職員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？ 前回 GOOD CARE 新聞第2号で頂いた皆様からの多くのご意見、いいね！も一部掲載させていただきます。

さて、GOOD CARE 第3号は**ユニット特集**です。  
各診療科の医師、診療看護師の方々から頂いた  
「ユニットのここがいい」をご紹介します！！

2020年12月発行



### ～救急科 高松 Dr より～

皆様、いつもありがとうございます、救急科 高松です。

「ユニットのここがいい！」に寄稿するようご依頼いただきました。2つ返事で「喜んで！」です。なぜなら

関西労災病院の **ICU、CCU、HCU** はいいとこ尽くめだからです。

いいところというか **すごい！！** ところはユニットにも関わらず**稼働率を90%以上**に維持しているところ。これ、口で言うの簡単ですがめっちゃ大変なことです。15年前の労災病院を含め近隣のユニットで90%の稼働率なんて聞いたことないですよ。**尊敬**しかありません。しかも**量だけではなくちゃんと質も保っています**。

ユニットの皆様は自分たちでは気付いていないかもしれませんが、例えば先日 **ICU** で ECMO 管理中の患者さんのリハビリの場面です。これ時々海外の動画などで紹介されたりするのですが、ECMO を行いながら歩行してもらいました。こんなこと近隣の救命センターでもなかなかできないです

また **CCU** では **IMPELLA** が今年から導入されていますが、まだ導入されて間もないのに一時期に3人の **IMPELLA** の患者さんの管理を熟す…なんとも簡単に順応することか！こういった患者さんたちが日々運ばれてきます。心血管外科の患者さんも大幅に増えて重症度がどんどん上がっています。その影響は当然バックベッドに顕著に出てきます。その煽りをまともに受け止めて**一般病棟との連携をうまく取ってくれているのが HCU** です。 \* **IMPELLA**…補助循環用ポンプカテーテル

まだまだユニットのすごいところを挙げればキリがありませんが、それぞれのユニットがそれぞれの中で団結しながら、かつお互いに**スクラム**を組んでこの**地域の重症治療に関わる医療を支えています**。これが関西労災病院のユニットです！



### ～伏見診療看護師さんより～

ユニットにはアセスメントや観察能力に優れたスタッフが多数在籍し、いろんな事に気がついて報告をくれたり、相談してくれて助かっています。急変時の患者対応はもちろん、急な処置や手術にも人員確保や準備など素早く対応してくれています。いつも**明るく笑顔の 絶えないスタッフで、日々一緒に楽しく働くことが**でき、感謝しています！！



★各ユニットの師長さん方にも部署の「ここがいい！」を紹介して頂きました★

### I C U・救急外来

#### ICU 崎園師長さん

全ての診療科を対象とした重症患者様のケアを担当しているのが ICU です。さらに ICU は救急外来における看護の役割も担っています。年間 7000 件の救急搬送患者様の症状安定に努め、速やかに治療に結び付けられるようチーム一丸となって取り組んでいます。重症だった患者様が少しずつ改善していく過程に関われた時、特に呼吸ケアなど看護の力が発揮できた時は非常に大きな喜びを感じることが出来ます。

緊張感のある現場ではありますが患者の救命のためにチームで一生懸命取り組んでいる部署です。



### C C U

#### CCU 田畑師長さん

CCU は循環器疾患の重症患者の対応を中心として1日でも早く退室できるように多職種とも連携してケアを行っています。忙しそうに見える場を見かければ手を差し伸べて安全に看護を行えることを第1優先として頑張っています。今年度は新たな治療として **IMPELLA** を導入しました。安全な管理が出来るようにトレーニングや講習を受けることで今は数症例の受け入れが出来るようになりました。

前向きに向上心を持って頑張れる部署です！！



### H C U

#### HCU 大前師長さん

HCU は ICU、CCU の後方病床として、超急性期を脱した患者さんを受け入れ、出来る限り安定した状態で一般病棟に転棟できるようにスタッフ皆で協力し患者さんの治療過程を支援しています

また、分からない事や疑問に思ったことを質問し、解決策を導き出すチーム力もあります。

スタッフ間の人間関係が良好で先輩・後輩を問わず気軽に会話が出来る雰囲気があり、スタッフ一人一人が互いを尊重し合える関係性がスタッフの職場定着に繋がっています。



### ～第2号のご意見・いいね！～



自分の部署以外の様子を見ることができて、新鮮な気持ちになった。



入院時から退院を見据えて関わることで、患者さんや家族も目標に向かっていくと思えました。



退院調整を考えながらアセスメントしたり、医療連携の看護師は来た時は、ウェルカムな姿勢で迎えたりすることでスムーズに退院調整ができ、結果患者にとって良いケアにつながっていると感じました。



すべての看護師がお互いに切磋琢磨し、頑張っていると感じた。

自分の病棟が書かれていてうれしかった。引き続き、協力して連携を取って行こうと思った。

どの病棟も2～3年目の看護師がよく頑張っていると思いました。



たくさんのご意見ありがとうございました。次回は2月頃に発行予定です。コメディックスで皆様からの意見をお聞かせください。皆さんからの自薦、他薦は問いません「いいね！」情報をお待ちしています。発行元：看護部定着活動委員会

